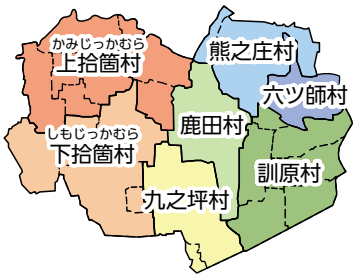
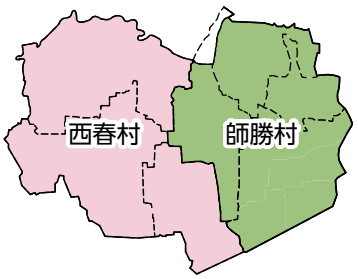
北名古屋市の未来を考える

第８回

これまで、2027年に予定されているリニア中央新幹線の開業が、北名古屋市にどのような影響を与えるのか、有識者のお考えを参考に、市民のみなさんと一緒に北名古屋市の未来について考えてきました。ここでいったん歴史をさかのぼり、北名古屋市がどのような成り立ちで発展してきたのかを、ご紹介します。

北名古屋市の成り立ち

行政区域の遷（うつ）り変り	旧西春区域	旧師勝区域
	参考人口 5,634人（明治９年西春日井郡誌） **明治22年（1889年）** 九之坪村（九之坪、加島新田）、上拾箇村（法成寺、宇福寺、北野、弥勒寺、鍛治ケ一色、徳重）、下拾箇村（西之保、中之郷、石橋、沖村、野崎）の３村が誕生	参考人口 3,855人（明治９年西春日井郡誌） **明治22年（1889年）** 訓原村（高田寺、久地野、二子、能田、井瀬木、片場）、六ツ師村、熊之庄村（熊之庄、薬師寺）、鹿田村の４村が誕生
	**明治39年（1906年）** ３村が合併し西春村が誕生 参考人口 5,660人（大正９年国勢調査）	**明治33年（1900年）** 薬師寺が五条村となる **明治39年（1906年）** ４村が合併し師勝村が誕生 参考人口 4,542人（大正９年国勢調査）
	昭和38年（1963年） 町制施行により西春町が誕生 参考人口 13,205人（昭和40年国勢調査）	**昭和36年（1961年）** 町制施行により師勝町が誕生 **昭和38年（1963年）** 旧北里村大字薬師寺を編入合併 参考人口 11,806人（昭和40年国勢調査）
	平成18年３月20日（2006年） 師勝町と西春町が合併して北名古屋市が誕生 参考人口 84,153人（平成27年国勢調査）	

※図は旧村及び旧町の大字界を用いて作成したイメージです。

このように、北名古屋市は約100年の間に、村から町へ、町から市へと、合併を繰り返しながら、大きく発展を遂げてきました。

現在の北名古屋市の良さや伝統は、こうした歴史の中で、市民のみなさんが独自の地域文化を融和させながら築き上げてきたものだと言えるのではないでしょうか。

問合せ　総務課